

学長告辞

本日ここに、同窓会関係者並びにご来賓各位のご臨席のもと、平成 26 度琉球大学入学式及び大学院入学式を盛大に挙行できますことは、大きな喜びでございます。

新入生の諸君！ご入学おめでとうございます。琉球大学の全ての在学生並びに教職員を代表して、諸君のご入学を心から歓迎いたします。また、これまでお子様を温かく見守り支援してこられた、ご家族・保護者の皆様に心よりお祝い申し上げます。

ただ今、学部長及び研究科長の申請に基づき、琉球大学にめでたく入学を許可されたのは、学部生 1,617 名、大学院生 278 名、特別支援教育特別専攻科 4 名、総計 1,928 名の新入生の諸君です。限りない可能性を秘めた 1,928 名の希望に満ちた諸君を、琉球大学のキャンパスで心からお待ちしておりました。

さて、本日から新しい学生生活を始める諸君に対して、琉球大学の生い立ちをご紹介します。琉球大学は、「この沖縄の地に高等教育の学府を！」という県民や海外の県系人の強い願いにより、1950 年 5 月に設立され、ミシガン州立大学ミッションの指導によって、大学運営の基礎が築かれ、1966 年から琉球政府立大学となりました。1972 年の日本復帰によって国立大学に移管され、さらに 10 年前の 2004 年から国立大学法人となりました。このように、本学の歩んできた道のりは、他の国立大学には見られないユニークなものでしたが、その底流にあったのは、「地域のための大学」という考えでした。

ところで、私たちを取り巻く県内、国内、そして世界を見渡してみましよう。そこには、解決を急がれているさまざまな課題や懸念材料が横たわっています。東日本大震災によって未曾有の被害を被った被災地の完全復興はいつ終わるのか、消費税増税は私たちの生活にどのように影響するのか、この国の年金や社会保障制度は維持できるのか、沖縄の基地問題の解決はいつになるのか、沖縄の健康・長寿ブランドはどのようにすれば取り戻せるのか、日本と諸外国の外交や経済関係はどうなるのか、世界的に広がる貧富の格差や環境問題に対してどのような対策を取るべきか、などといった難題が山積しております。

このような解決すべき課題や懸念材料に対して、諸君はどのように対処していけば良いのでしょうか。一つの答えは、何ごとにも主体的に関わり、自ら疑問とするところを徹底的に追究し、納得いく自分なりの解答を見つけ出すことです。主体的に学び努力する。それによって、自分の可能性 **potential** が高まっていくのです。

自らの可能性を高めていく上で、学生時代は最もよいチャンスです。時間と空間をより自

由に自分のために有効活用できるからです。この貴重な学生時代に内面的に大きく成長するためには、自分自身に上限を設けないことが大事です。古い言葉になりますが、孔子は論語の一節で、「今女（なんじ）は晝（かぎ）れり」と述べています。Don't set limits for yourself という意味です。

私の経験では、学生時代は自分が 100%だと思っている限度よりも、150%、いや 200%でも力が出せます。ですから、自分の力を 100%と限ってしまわないことを、先の論語の一節は述べています。しかも、人間は、かなり頑張っているつもりでも、能力の 6 割程度しか発揮できていないと言われますので、「100%力を出したので、これで精一杯だ」と本人は思っている、実際には 6 割くらいしか実力が出ていないわけです。そのようなことですので、自分の能力を 150%、200%、あるいはそれ以上に発揮できるように心がけて下さい。それが可能なのが、強い意欲と若いエネルギーがみなぎり、限りない可能性を秘めた諸君にほかなりません。

自分自身に上限を設けず、可能性を追求していくためには、率先して主体的に深く学ぶ姿勢を持つことが大切です。主体的にさまざまなことを学び経験し、知性に裏打ちされた豊かな人間形成を行っていただきたいと希望いたします。大学で主体的に学ぶには、諸君の特権でもある自由な時間を使い、冒険心を発揮して、恐れずに自分の世界を広げて下さい。

自分の世界を広げるということでは、読書は手っ取り早い方法ですし、アルバイトをしてみることもよい経験になります。また、他の地域や外国を旅して回ることも、自分の世界を広げ、大きな視野でものごとを判断することにつながります。可能ならば、留学をお奨めします。学生時代に、是非、一度は海外へ飛び立ってください。留学は、外国旅行では味わえない、現地での生活空間や教育研究環境に自分を置くことができ、地元の学生や市民と同じ目線での生活ができる異文化体験そのものです。それこそ、トビタテ! JAPAN です。

以上は、時間的自由度と空間的な行動範囲という形で、豊かな人間形成のために、諸君自身の世界を広げて行く一つの例示でしたが、いうまでもなく、大学の教室でも主体的・能動的な学びによって、高度な分析能力、論理的な思考能力、総合的な理解力、現象や問題の本質を見抜く洞察力を身につけることができます。

主体的な学びとして意欲的に模索の旅を続けることによって、諸君は人間力を備えたグローバル人材として成長し、社会から期待される有為な人材となれるはずで、社会は諸君に大きな期待を寄せています。

修士課程、専門職課程および博士課程の大学院生にあつては、学術研究を究める過程で、研究者としてあるいは高度専門職業人としての、深い学識及び卓越した能力を十二分に培っていただきたいと希望します。大学院生諸君の琉球大学における研究生活が、より充実したものとなるよう、意欲的な研鑽を期待いたします。

終わりにあたり、第 35 代アメリカ大統領 ジョン・F・ケネディの言葉を引いて、諸君へ贈るお祝いの言葉といたします。

「私たちは、今までになかったものを、夢見ることができる人々を必要としています。私たちみんなが、才能を等しく持っている訳ではありません。でも、自分の才能を伸ばしていく機会は、等しく与えられているのです。そして、大きな失敗を恐れない者だけが、偉大なことを成し遂げます。」

新しい時代を切り開く、明日のフロント・ランナーとなるために、失敗を恐れず、自分の可能性を信じて、真理を模索する旅へチャレンジしてください。

本日は誠におめでとうございます。

2014 年 4 月 4 日

国立大学法人琉球大学
第 16 代学長 大城 肇